

立川綜合病院 周術期休薬一覧 活用マニュアル

2025年9月16日 改訂
術前休薬検討小委員会、安全管理委員会

1. 目的

患者の不利益となる周術期の休薬・再開に関連するインシデント・アクシデントを防ぐために、当院で作成した周術期休薬一覧を多職種で休薬・再開の確認に活用する。

2. 対象薬剤

当院で休薬の対象とする薬剤は、以下の通りである。薬剤名、休薬期間の目安は各一覧に掲載されている。一覧はT-Macss上の「安全管理」、「薬剤部」、「マニュアル」に掲載し、定期的に改訂を行う。

- ・抗血栓薬
- ・女性ホルモン関連薬（一部の骨粗鬆症治療薬を含む）
- ・抗がん剤（分子標的治療薬）
- ・糖尿病治療薬（SGLT2阻害薬、ビグアナイド薬）

※健康食品やサプリメントは手術の2週間前からの服用休止を推奨する。再開は原則退院後からとする。（別紙「健康食品やサプリメントを服用されている方へ」参照）

3. 休薬期間の考え方

休薬日数は手術、処置、検査当日を含まないものとする。

例）休薬が3日間の場合

| 5日前 | 4日前 | 3日前 | 2日前 | 1日前 | 当日 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ○（服用） | ○（服用） | ×（休薬） | ×（休薬） | ×（休薬） | ×（休薬） |

4. 活用方法の一例

- ・手術等が決定後、外来看護師が服用中の薬剤を確認の上、休薬一覧と照合し、休薬が必要と思われる薬剤をピックアップする。
- ・看護師から医師へ確認を行う。休薬一覧に記載されている休薬期間は、あくまでも「目安」である。実際の休薬は患者の状態やリスク等に応じて各医師が判断する。
- ・医師は必要時、当該診療科に診療依頼する。その際、手術等の内容、出血リスク（低・中・高）を記載する。

※以前、当院で診療を行い、近医へ紹介されていた患者が手術等を当院で行う場合の休薬判断は、当院当該診療科で行う。

※ヘパリン置換が必要な場合は、抗血栓薬休薬一覧の別紙資料を参照する。また、注射セット→院内共通にヘパリン置換セットがあるため、必要時利用する。

※上記は一例である。詳細は各科外来の裁量にて実施する。

5. 患者への説明、同意取得

- ・「抗血栓薬の継続、短期間休薬、一部短期間休薬の説明・同意書」、「糖尿病治療薬、女性ホルモン関連薬、他の薬 休薬の説明・同意書」を用いて、患者もしくは代理人に説明を行い、同意を取得する。